

# 変な形の校舎を調査せよ！

助手（以下、助）：探偵さん、依頼が来ました。「京大には、上空から見ると変な形をした校舎がたくさんある。それらの由来を調べてくれ」だそうです。  
 探偵（以下、探）：なるほど、言われてみれば変わった形をした建物が多いかもなあ。この依頼では4つの校舎が指定されているのか。では手分けして調査開始だ！

## つながっていない「口」の字型校舎 ～吉田南総合館～

### 現状

共北・共東・共南・共西は「吉田南総合館」という1つの建物であるかのような名前が付いているが、所々途切れている。これは一体なぜだろう？

### 調査結果

現在の共北の場所に「A号館」という建物があったときは、現在の共東・共西とA号館がつながっていたそうだ。しかし昭和56年に建築基準法の耐震基準が大きく変わり、改正前に建てられた共東・共南・共西はこの新基準を満たしていなかった（現在は耐震補強済み）。共北ができた当時、これらの建物と共北を内部でつなげるには、耐震補強工事を同時に行う必要があった。しかし、実現するには工事が大掛かりになり過ぎるため、建物をつなげる工事の方はできなかったという。



## 校舎の一部に巨大なプラグ!? ～農学部総合館～

### 現状

農学部総合館を上空から見ると、中庭の西側にプラグ型をした部分があることに気づく。これは一体何だろうか？

### 調査結果

謎の部分の正体は、「大講義室 W100」である。台形型のこの講義室には、農学部総合館側の出入り口の他に、中庭へと通じる出入り口が2つある。この中庭側の出入り口と講義室が、上空から見たときにちょうどプラグのように見えるというわけだ。



## F字型の校舎

### ～工学部物理系校舎～

### 現状

工学部物理系校舎は、上空から見るとアルファベットの「F」の形をしている。なぜこのような形になったのだろうか？

### 調査結果

桂キャンパスができる少し前、吉田キャンパスでは教育・研究スペースが足りておらず、スペースを稼ぐために高層化しようという目的のもと建てられたのがこの校舎。しかし、鴨川から大文字山を見たときの景観を損ねないよう、南北に延びる建物は高層化せず、東西方向に高い棟を2つ建て、その2つを南北方向に延びる西側の低い建物でつなげたのだ。

ちなみに南側に突き出ている部分の先には、高い棟をもう一つ建てる計画もあったが、実現できていないため、現在のこのような形になっているそうだ。



## 階段状の校舎

### ～人間・環境学研究科棟～

### 現状

人間・環境学研究科棟は上空から見ると階段型をしている。校舎北側にある遺跡のせいだろうか？

### 調査結果

以前、人環棟南側の道と総人広場をつないだ太い道を作る計画があった。その計画によると、人環棟は道がカーブするところに建つことになっていたの、それに合わせて建物も斜めになっているということだ。

なお、この形は校舎北側にある遺跡とは全く関係ないようだ。



▲人環棟南側～総人広場をつなぐ計画図 (イメージ)

## コラム

### ～口の字型校舎～

昔の校舎には口の字型をした校舎は当時の流行によるようだ。憩いの役割が大きかったのではない（『京都大学百年史 写真集』よ吉田南総合館に関しては、校舎の建て替えがあった際、旧校舎の周りに今の校舎を建てた結果口の字型になったと考えられる。旧校舎のあった場所が現在の中庭である。

舎が多いが、いの場合かと思ひ。

探：各校舎の成り立ちにはいろいろな事情があったんだな。  
 助：ええ、形そのものはもちろんですが、その形になるに至った理由も想像以上にいろいろあって面白かったですね。  
 探：ところで、私のケータイの充電器知らんか？ そろそろ電池が切れそうだし、それ僕が貸してたやつですよ？  
 助：知りませんよ。もしかして、また失くしたんですか？ それ僕が貸してたやつですよ？  
 探：ほ、ほら、君は予備のコードを持っているじゃないか。それをちょっぴつと使わせてもらっただけだから……。  
 助：嫌です、また失くされたらまたまたもんじゃないやありません！ 農学部総合館のあの教室でも使って充電してください！  
 探：そんな無茶な～(泣)